

りの杉苗が草に負けそうになっている。そんな中を沢はいくつにも分岐しながら、
 だんだんとやせ細ってゆく。遡行終了7:35。所要時間は1時間15分であった。

(記・一)

【タイム】 トの沢出合(6:20)→終了(7:20)

鬼ヶ煩沢支流チの沢

1989年5月28日

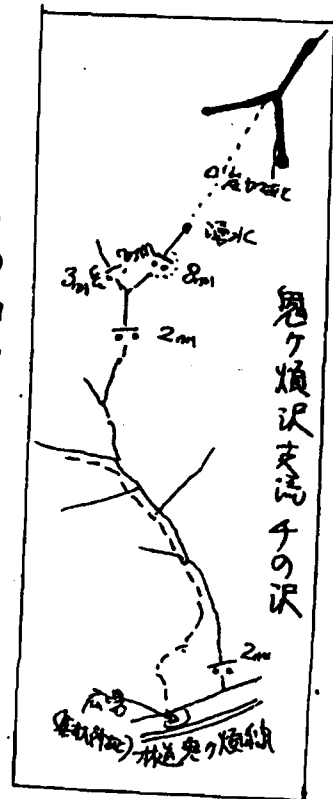
Li

尾根から急な斜面を5分ほど下ると、炭焼き釜があった。このあたりでも炭焼きが行われていたらしい。その後すぐ湧水があって、いよいよチの沢(仮称)の下降が始まる。すぐに8mの滝。左岸を捲いて下る。クライミングダウンも可能であるが、捲いてしまった方が早い。このあとはずっと平凡なままの下りとなる。

右岸から3本目の支沢が合流すると、右岸にしっかりした道が出てくる。ブルで拓いた林業用の道である。沢は平凡なままだし、ここで沢から上がることにする。

(記・.....)

【タイム】 下降開始(10:30)→林業用歩道(11:15)→鬼ヶ煩沢出合(11:25)



鬼ヶ煩沢支流りの沢右俣、中俣、左俣

1989年5月28日

I

檜沢出合の広場に車を置いて、8:00遡行開始。樹林帯の中の細い沢である。1mくらいの小滝が2つかかるが、特に問題となるところもない。20分程歩いて左俣出合。奥に4mほどの滝がかかっているのが見えるとはいふものの、水量も少なく細い流れの左俣を見送って本流を進むが、後から考えると、この左俣こそこの沢の本命ともいふべき沢であった。